

2019. 2. 28 第36回口頭弁論期日後の記者会見要旨

第36回口頭弁論期日が終わりました。

新聞報道によれば、昨年12月14日の原子力規制委員会の審査会で、中部電力が最大津波高として想定している21.1メートルに関し、委員会側から、不確実性を考慮してさらに厳しい条件設定を求める意見が相次いだとのこと。また、防潮堤の前面にある砂丘の津波による浸食や地震への安定性についても説明を求めたと言います。それを受けて、中部電力は、防潮堤のかさ上げを検討していると言います。当初、海拔18メートルの防潮堤を建設していて、それを4メートルかさ上げしたものが現在できている防潮堤です。更なるかさ上げが構造上できるのかも疑問です。そもそも、中部電力の行っている津波シミュレーションが間違っていると考えます。中部電力の独自の計算に、原子力規制委員会が疑問を呈したという事実は大きなことだと思えます。福島第一原発で明らかになったとおり、電力会社は、想定すべき津波高を、対策に費用が掛かりすぎるとして、想定がなかったということにするのです。そのような姿勢が中部電力にもあるのではないのでしょうか。

さて、2月14日に浜岡原発を視察した経団連の中西会長は、原発を作っている日立の会長でもあり、当たり前かもしれませんが、原発をできる限り早く再稼働してもらいたいと言ったとのこと。また、記者から、住民の間で原発に慎重な意見が根強い理由を尋ねられたとき、中西会長は「原子力発電所と原子爆弾が頭の中で結び付いている人に両者は違うということを理解させることは難しい」と答えたとのこと。これに対し、御前崎市長らが反発したことから、後日、中西会長は、「表現が不適切だった」と釈明したと言います。

私は、個人的には、原発と原爆を結び付けて考えてしまいます。原発はとても人間の力では制御できないものだと考えます。使ってはいけないものだということでは原爆と同じです。しかも、原発の使用済み燃料は、ものすごく多い量です。人間に影響ない程度にまで放射線量が減るのは何万年もかかるのです。原発は原爆とは違って、安全でクリーンなエネルギーだという説明が、全く虚偽であったことが福島第一原発の事故で明らかになっています。環境に放射性物質を排出することでは、原発の原爆も同じです。福島第一原発の事故からもうじき8年が経ちます。まだまだ故郷に帰れない人が大勢います。原発が事故を起こさないという安全神話はすでに嘘だということが明らかになっています。原発と原爆を結び付けて考えることは、私は、間違っていないと思います。

折しも、2月25日、第五福竜丸の操舵主だった見崎進さんが亡くなりました。第五福竜丸は、1954年3月1日にビキニ環礁で操業中に水爆の実験による死の

灰をあびてしまいました。焼津港所属だったこともあり、静岡県は、広島、長崎に次ぐ第3の被爆地と言われています。その静岡県にある浜岡原発ですから、原爆と結び付けて考えるのは当然ではないでしょうか。

1000年に一度くらいの程度で巨大津波が東海地方を襲っていたことを示すものが伊良湖岬で見つかったとのこと。2012年に内閣府が示した南海トラフ巨大地震の津波想定は、現実でありえるものだということが証明されたのです。福島原発の事故のような事故を起こさないために浜岡原発の運転を差し止めるべきだというのが「社会通念」であることは間違いないと思います。

私たちの戦いはまだまだ続くこととなります。皆様のご協力とご援助をお願いいたします。

弁護士 鈴木 敏 弘